



こもれびの森の植物 …… オドリコソウ(踊子草) ……

早春の農地や路傍に薄青色のオオイヌノフグリと共に、赤紫色のホトケノザそしてヒメオドリコソウの群落が見られるようになってきます。

そのホトケノザやヒメオドリコソウの兄弟にオドリコソウがあります。ヒメオドリコソウは赤紫色を帯びた葉に小さな花が隠れあまり花が目立ちませんが、オドリコソウの花は葉の下に3から4センチほどの花をつけ、その名にふさわしく笠を被った踊子を連想させます。でも、ヒメオドリコソウはあちらこちらで目にしますが、オドリコソウは、この森の近辺で目にする機会は多くはありません。

その花が、以前はグラウンドだった裸地に広葉樹を植栽し、定期的の下草刈りをおこなっている陽当りの良い植樹地に咲いていました。少し湿り気を帯びた半日陰などを好む草であり、生育には適している環境とは思えません。ですので、近所の方が植えられた可能性が高いです。あるいは埋土種子による発芽も考えられます。



オドリコソウ



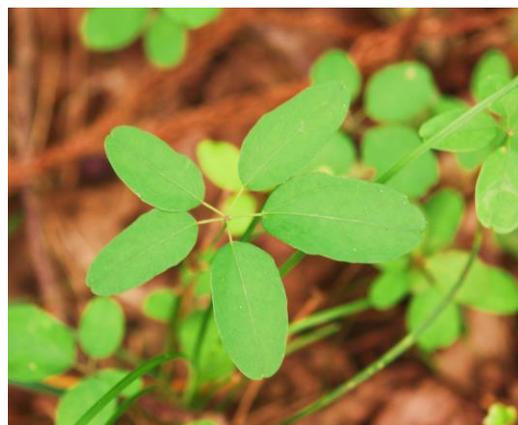
ヒメオドリコソウ

	オドリコソウ	ヒメオドリコソウ
原産地	在来種	外来種
生育	多年草	二年草
花	3~4cm	1cm
植生	半日陰	野や畑など
草丈	30~50cm	10~25cm

在来種の多くは外来種より花が小さいですが、オドリコソウは逆となっています。(岩田)

木もれびの森の薬用植物(12) …… アケビ(アケビ科アケビ属) ……

こもれびの森にはたくさん生えているのに生長できないかわいそうな植物です。雌雄同株で雄花と雌花が同じ花序につき、果肉は食べられますが、こもれびの森では実どころか花さえ見たことがありません。小葉が5枚のものがアケビ、3枚のものはミツバアケビで、こもれびの森で見られるのは小葉が5枚です。アケビ又はミツバアケビの茎は、日本では生薬「木通(モクツウ)」の材料として使われます。木通は日本産のものが使用されている数少ない生薬で、徳島、香川県が主な産地です。



木通という名前の由来は、「本草綱目」によると、「蔓には細い孔があり、通っているので通草といい、今の木通である」と説明しています。中国の古典に出てくる木通は、地方によっていろいろな植物が基原として用いられたので、元々の基原植物が何であったのかわかっていません。中国では木通と名のつく生薬には何種類もあり、かつて「関木通」として流通したものは全く別種のウマノスズクサ科の植物で、含有成分のアリストロキア酸による腎障害が問題になりました。

木通には、体にたまった余分な水分を出す利尿作用、通経、消炎作用があり、漢方では尿路疾患、消炎性利尿の処方である五淋散（ごりんさん）、竜胆瀉肝湯（りゅうたんしゃかんとう）などに用いられています。アケビは民間薬としても用いられ、実は食用、蔓はアケビ細工として古くから親しまれている植物です。（川村）

活動紹介； ジュニアボランティア体験講座

今の子供たちはとても忙しそうです。野球、サッカー、プール、テニス、ピアノ、バレー、塾…。やりたいことが沢山です。そうした中、木もれびの森に来て私たちと一緒に森の整備をしたいと思う子供たちもいま



下刈り

す。私たちにとっても、そんな子供たちと一緒に森の事を学ぶ時間はとても楽しいことです。夏は下刈りをします。小さな手に鎌を持ってアズマネザサを刈り取ります。アズマネザサを放置すると、やがて森の中は笹で覆いつくされてしまうので下刈りが欠かせません。夏の夜はセミの羽化を観察します。昆虫は森の血液といわれます。花粉を運び、栄養を運び、落ち葉や倒木を分解したりと、まるで人間の血液のような働き

をします。セミは 7 年間も土の中で過ごし、地中の穴から這い出てきて一夜のうちに脱皮し成虫になります。その羽化の様子を見つめる子供たちの瞳は感動に輝きます。秋には間伐をします。立ち枯れてしまった木を



セミの羽化



間伐

手鋸で切って倒します。木は土にかえりやすいように枝打ちや玉切りをして地面に並べます。冬は落ち葉掻きをして、たき火でお芋を焼きます。そのたき火で花炭を一緒に作ります。昔は落ち葉を田畑の肥料に使っていたそうですが、最近はそのも少なく

なりました。

子供たちは私たちの宝物です。森も私たちの宝物です。子供たちと触れ合いながら、森の事をともに考える時間は私たちにとってかけがえのない時間だと思います。森を歩いて、ニガキの葉がとても苦いことや、サンショウの葉はいいにおいがすることを知り、コナラのどんぐりが根を張り、芽を出す様子を見ました。子供たちは森が素敵で楽しいと言います。そんな言葉を聞くと私たちの方がもっと嬉しくなります。（鳥飼）



落ち葉掻き